

From金沢

CONTENTS

- 支部見聞録(北陸支部) 2
From 金沢 [秋季大会拡大版]
- LS 研総合発表会 2016 6
- ICT 基礎講座 Close-Up 10
モノを共有する経済文化
「シェアリングエコノミー」
- トップは語る 14
オリオン機械株式会社
代表取締役社長 太田 哲郎 氏
- 講演録 16
大阪大学基礎工学研究科教授/
ATR石黒浩特別研究所客員所長
石黒 浩 氏
- HUMAN HUMAN 18
特定非営利活動法人 STAND
伊藤 数子 氏
- Family's Information 19

Family 2016 372号



表紙のこぼ (世界の橋シリーズ)
松見大橋(まつみおおはし)
北海道河東郡

大雪山国立公園の大自然の中に、ぽっかりと浮かぶように現れる松見大橋。北海道にある国道の中で一番の標高(1,139m)を誇る国道273号の三国峠付近にあり、広がる樹海を見下ろしながら、空中ドライブ気分が楽しめる。春・夏は緑にかがやく眼下の森林は、秋には紅葉、冬は樹氷と、四季折々の表情を見せ、フォトジェニックなスポットとしても知られている。



古都と近代都市が共存する 金沢のまちづくり

昨年3月の北陸新幹線の開業で、いっそう賑わう金沢。ひがし茶屋町などの重要伝統的建造物群保存地区を筆頭に、伝統と文化の薫り高い町並みと駅周辺の近代的なビル群が共存して、重層的な魅力を見せる。この町はどのようにしてつくり、守られてきたのだろうか。

上/伝統的建造物群保存地区、ひがし茶屋町。卯辰山の麓に広がる*



新幹線で金沢を訪れる者を迎える駅前の「もてなしドーム」と「鼓門」*



金沢駅東口。新幹線延伸に先立ち、駅周りは機能的に整備が進められた

今に残る伝統の町並みを 伝え継ぐために

金沢の町は一向一揆の後に加賀が「百姓ノ持チタル国」となり、1546年に本願寺が拠点となる「金沢御堂」を築き、周りに寺内町が形成されたことに始まると言われる。後に織田信長配下の佐久間盛政によって金沢御堂が攻略された跡地に城が築かれた。その3年後にこの地の主となった前田利家を藩祖とする前田家が城と町を順次整備。17世紀後半には現在の金沢中心部の原型となる城下町が完成している。

南東から北西へ流れる浅野川と犀川の間位置し、町を北国街道が貫き、城下から外へ石引道や港の金石への宮腰往還(金石街道)が延びる。城を中心に堀と土塁の惣構が二重に巡らされ、城の近くには重臣や上級



武士、その周りに中堅武士、惣構の外には足軽の住居が配された。街道の周辺は町人地となり、寺は防御などの意味もあって町の背後の卯辰山山麓、寺町台、小立野台の高台に集められた。

明治以降様々な変化はあったものの、金沢で今もこうした町の原型が受け継がれ、伝統的な景観が残されてきた根底には、「大きな災害や戦災に遭わなかったことと、全国に先駆けた、いち早い保全への取り組みがありました」と金沢市文化スポーツ局歴史都市推進課課長補佐、水由謙一さんは言う。金沢で伝統的な景観保存の動きが始まったのは、1960年代前半（昭和30年代の終わり頃）。長町の武家屋敷群の土堀や門の修復や整備事業を行ったのが口開けだった。

全国に先駆けた 伝統環境を守る条例の制定

1966年には国によって「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」いわゆる古都保存法が施行された。京都、奈良、鎌倉など、政治、文化の中心として歴史上重要な地位にあった場所として政令で定める市町村が対象で、金沢は外れ

ていた。しかしこのことで「金沢は歴史の町、国がやらないなら自分たちで」という機運が市民や経済人の間にも高まり、金沢での伝統的景観保存の取り組みを大いに加速させることになる。「金沢市民は日頃から伝統文化に身近に接して、歴史の町としての意識も高い。そんな素地もあったと思います」（水由さん）。

1968年に定められた金沢市伝統環境保存条例は、自治体によるこの種の条例としては日本初のものだ。古都保存法では対象外だった一般の民家や町並みも含め、高度経済成長期下で危機にさらされていた伝統的な環境の破壊を極力防止し、近代都市に調和した新たな伝統環境を創出することを目的に、保存区域を指定、助成などの制度を整えた。以後改正も行われ、1989年の「金沢市における伝統環境の保存及び美しい景観の形成に関する条例（景観条例）」では、対象を伝統環境だけでなく近代的な都市空間にも範囲を広げている。金沢市では、かねてから「保存と開発の調和」を基本方針として、戦略的にまちづくりに取り組んできた。エリア分けして金沢城や兼六園を中心とする旧市街地は保存優先とし、片町や香林坊といった既存の商業地域から武蔵ヶ辻、金沢駅を結ぶ幹線道路沿いの「都心軸」と呼ばれるラインや、駅西の将来の「副都心」と位置付けられたエリアでは、区画整理や再開発が進められてきた。景観条例では、これら開発優先のエリアも近代都市景観創出区域として指定し、建築物や空間に関して市が助言や指導を行うようになった。

後に国も「景観法」を制定したが、「策定時には金沢の取り組みが参考事例となり、市長が国の国土交通委員会の参考人として呼ばれるなど、大きな役割を果たしています」と水由さんは語る。2009年には国の景観法と整合性を持たせるため「金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例（新景観条例）」を定めている。



一時は暗渠化して駐車スペースなどになっていた用水も蘇った



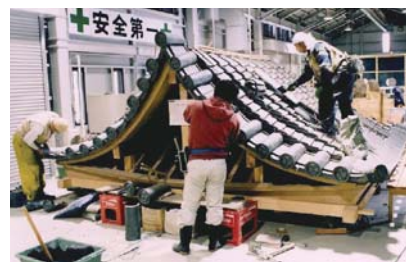
伝統景観保存の先駆けとなった長町。土堀や長屋門のある町並みが美しい*



職人大学校長町研修塾。学習の一環で家屋を修復、講義などに活用している



明治以降に発展を遂げ、浅野川沿いに木造3階のたたずまいを見せる主計町



職人大学校では夜間や土・日曜・祝日に、3年にわたって伝統建築の技術を修得★

伝統の町並みと
近代的都市が共存する金沢へ

金沢では景観条例のもとで、事業や復元建物外観の修復、耐震や防災工事に対する補助金制度や、屋外広告物の規制、暗渠化が進んでいた用水を開渠化・整備する用水条例など、具体的な手が次々に打たれてきた。現在では、東山ひがし地区と主計町地区の2つの茶屋町と、卯辰山山麓地区と寺町台地区の2つの寺町、計4カ所が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている。

また、この4カ所以外でもまとまって古い町家が残っている地区を、市では「こまちなみ」と名付け、現在9

地区を指定。さらにこれらの地域外に単体で散在する金澤町家の保全活用にも力を入れている。市内にある1950年以前に建築された町家は総計で約5,600棟(旧城下町地域)。取り壊されずに維持継承されるよう、活用や流通を促すためにインターネットを活用した町家情報バンクなども実施している。今年(2016年)11月には築150年の町家をリノベーションし、市の町家施策の総合拠点となる「金澤町家情報館」もオープンする予定だ。一方で歴史的建造物の修復等技術伝承のための人材を育成する「金沢職人大学校」も開校。大工や石工、左官など技術を持つ人を対象に講義を行い、市独自の資格を授

与している。

伝統的景観の保存に取り組んで半世紀。一方で開発優先の都心軸や駅周辺、駅西の新都心地区も変貌を遂げてきた。やはり打つ手は早く、土地区画整理事業や50メートル道路の建設、鉄道の立体交差化など多数の事業が進められ、北陸新幹線の開業に先立つ10年も前に早々と金沢駅ではシンボルとなる東口のもてなしドームと鼓門が完成、県庁が新都心へ移転。新幹線開業1年前には西口広場も再整備され、新幹線延伸後も駅を中心とする都心軸でビルやマンションの建設ラッシュが続いている。近代的で整然とした、調和のとれた町並みが形成されているのも、景観条例の賜物だろう。

協力/金沢市 文化スポーツ局 歴史都市推進課 写真/*金沢市提供、★同歴史都市推進課提供

FUJITSU
ファミリー会
2016年度

開催予告

秋季大会

- 開催日 ■ 2016年11月10日(木)～11日(金)
- 会場 ■ ホテル日航金沢(石川県金沢市)
- 募集定員 ■ 1,000名



▲金沢城公園

写真/金沢市提供



▲ホテル日航金沢

本年度の秋季大会は北陸支部で開催いたします。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

主な内容(予定)

11月10日(木)

◆ 特別講演

「まちづくりものづくり 金沢の物語」
石川県中小企業団体中央会 会長 山出 保 氏



◆ 記念講演

「人生のデザイナー」
スポーツプロデューサー 三屋 裕子 氏



◆ セッション(2会場同時進行)

- ・「おもてなしの心～加賀屋の流儀～」
株式会社加賀屋 代表取締役相談役 小田 禎彦 氏
- ・LS研究委員会 2015年度 研究分科会 最優秀賞 受賞グループ発表
「オープンデータの活用可能性に関する研究」
日本システム技術株式会社 市原 泰介 氏

◆ 懇親会

11月11日(金)

◆ 交流行事(親睦ゴルフ、視察)

▼最新情報はウェブサイトで▼

<http://jp.fujitsu.com/family>